南条古墳群第３号墳の調査

調　査　地　　向日市物集女町南条４０－１
調 査 期 間　　平成20(2008)年１月15日～２月５日
調 査 主 体　　財団法人向日市埋蔵文化財センター

航空写真

周辺地形図

調査の概要

南条３号墳は、通称「二校前古墳」と呼ばれる円墳で、この古墳の年代など詳細については不明であったために、市史編さんの一環として1970年代の後半に測量調査が実施されました。測量の成果によれば、墳形は直径23.5m、高さ3.5mの円墳で段築の様子は不明です。斜面には葺石がある。墳頂部は平坦で、平坦面の直径は9.0mです。平坦部の中央には東西方向に長い楕円形の盗掘壙があります。作業中に、盗掘壙付近で須恵器片と斜面部で円筒埴輪片が採集されました。これらの出土遺物の示す特徴から、この古墳が古墳時代中期中葉（五世紀前・中葉）になることがわかりました。これによって、南条古墳群を古墳時代後期のものとするこれまでの見解が誤りであったことがわかりました。盗掘壙や今回の調査でも大きな石材が認められないことからも、横穴式石室ではなく、埋葬施設は中期的な竪穴式石室、あるいは木棺直葬と考えられています。消滅した他の古墳の実態は不明ですが、少なくとも古墳時代中期から南条古墳群が形成されはじめたことは確かです。

今回は、墳丘の規模を確認するために二箇所にトレンチを設けて調査を実施し、あわせて周辺の測量も実施しています。その結果、墳丘の裾を確認し、古墳が推定よりやや大きくなること、周りに周濠がないことがわかりました。また、埴輪や須恵器も出土しており、古墳がいつ頃作られたかが、より正確にわかるものと思われます。

南条3号墳地形測量図